

令和7年度（2025年）

印旛地区教育研究集会 外国語研究部提案資料

研究主題

「言語活動を豊かにするための指導について」

成田市立大栄みらい学園 英語科

1. 研究主題

「言語活動を豊かにするための指導について」

2. 学校および生徒の実態

本学園は、成田市大栄地区にあった、大須賀小学校、桜田小学校、前林小学校、津富浦小学校、川上小学校、大栄中学校が令和3年3月31日に閉校し、令和3年4月1日に義務教育学校「大栄みらい学園」として開校し、今年で5年目になる。学区は、千葉県北部のほぼ中央に位置し、利根川の恵みを受け、畑作中心の純農村地帯として栄えてきた。東関東自動車道の成田 IC—大栄 IC 間の供用や成田空港の影響で地域開発が進み、人口漸増もしばらく続いたが、近年の児童生徒数は減少している。

本学園の児童生徒は、明るく素直で礼儀正しい子供が多い。大半の児童が同じ幼稚園や保育園から進学していることや幼小連携、小中連携を推し進めてきたことから、統合後は友達が増えたなどの理由により、学園生活を楽しんでいる様子が多くみられる。

義務教育9か年を低学年ブロック（1～4年）、中学年ブロック（5～7年）、高学年ブロック（8～9年）に分け、学年段階によりそれぞれの指導目標を設定している。全校縦割り班を編成しての清掃活動や交流活動、9学年一緒にの体育祭など、異学年交流を取り入れることにより、後輩を思いやる気持ちやリーダー性などが養われていると感じる。今回は現在中学2年生にあたる8学年の活動を研究した。

英語の学習においては、各ブロックの授業の様子を、教えている教員や外国人英語講師から直接、得ることができ、毎日の授業に活かすことが可能である。

一方で授業中の表現活動では、恥ずかしい、解答に自信がないなど苦手な生徒も多い。お互いに協力する作業や、自信のある活動には積極的に参加できるので、授業中に自信を持って活動できるようにサポートすることが必要となる。

学力については、成田市の学力調査の問題別回答率を見ると、最も正答率が低かった問題が記述問題であり、全国正答率の半分程度だった。そうした課題を踏まえ、今回の研究主題を設定することにした。

3. 主題設定の理由

学習指導要領から

第1章総則 第1の2

（1）基礎的・基本的な知識及び技能を確実に定着させ、これらを活用して課題を解決するために必要な**思考力・判断力・表現力等を育む**とともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。その際、**児童の発達段階を考慮して、児童生徒の言語活動など、学習の基盤をつくる活動を充実**するとともに、家庭との連携を図りながら、児童の学習習慣が確立するよう配慮すること。

と示している。これを受けて

- ①「自分の思いや考えを伝える」
- ②「言語活動の充実」
- ③「9年間を見通した系統性」

の3つの視点から設定した本校の校内研究の主題が

「自分の思いや考えを伝え合うことができる児童生徒の育成
～言語活動の充実と9年間を見通した系統性に視点を当てて～」

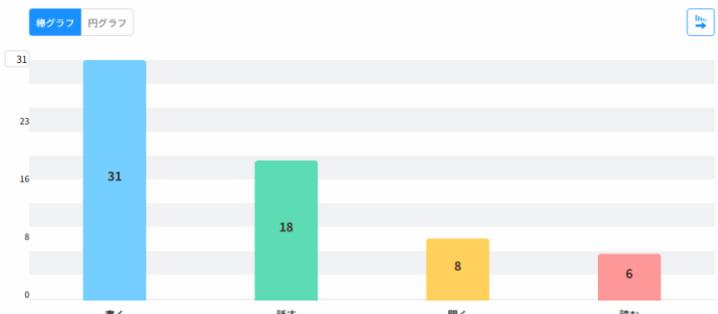
となっており、今年度で3年目になる。学年・教科を問わず授業内で言語活動を行うことを意識し授業を行い、校種・教科を問わず授業の研修を年間を通して行っている。今回の外国語研究では「言語活動」に注目して主題を設定した。

また、研究主題を設定するにあたって、生徒の現状を把握するために昨年からの授業を担当している今年度の中学2年生（63名）を対象に、中学1年生の年度に以下のアンケート（資料1）を行った。目的は生徒が感じている課題を把握し、実際の学力調査の結果と照らし合わせ、生徒の苦手な活動やその向上に向けた手だてを考えるものとした。

- Q1 読む・書く・聞く・話す で一番苦手なものはなんですか。（選択式）
- Q2 英語を話すときにどういった点が不安ですか。（記述式）
- Q3 英語で自分の意見を書くときにどういった点が不安ですか。（記述式）
- Q4 英語をもっとできるようになるためには、どういった力が必要だと思いますか。（記述式）

以上の項目でアンケートを実施した。

アンケートの結果を集計すると以下のような結果になった。

<p>Q1【英語で苦手な活動】 (資料1-1) (1つ選択必須)</p> <ul style="list-style-type: none">・書く 50%・話す 28%・聞く 13%・読む 9%	<p>Q1 以下の活動で1番苦手なものはなんですか。</p>  <table border="1"><caption>Q1 以下の活動で1番苦手なものはなんですか。</caption><thead><tr><th>活動</th><th>人数</th></tr></thead><tbody><tr><td>書く</td><td>31</td></tr><tr><td>話す</td><td>18</td></tr><tr><td>聞く</td><td>8</td></tr><tr><td>読む</td><td>6</td></tr></tbody></table>	活動	人数	書く	31	話す	18	聞く	8	読む	6
活動	人数										
書く	31										
話す	18										
聞く	8										
読む	6										
<p>Q2【英語を話すときに不安なこと】 (資料1-2) (記述式。複数回答あり)</p> <ul style="list-style-type: none">・文章（語順）が正しいか（合っているか） 50%・単語の読み方があっているか 35%・話の内容が相手に伝わるか 25%・何を話したら良いか 13%											

Q3【英語で自己表現を書く際に不安なこと】（資料1-3、記述式。複数回答あり）

- ・文章の正確さ（語順） 66%
- ・単語の意味やスペル 50%
- ・どんな英語を書けば良いか 10%

その他「意見をまとめられない」「こんな文章があるか不安」

Q4【生徒が英語で必要だと感じている能力】（記述式。複数回答あり）

- ・語彙力・単語力 40%
- ・文法の正確性 21%
- ・英文を書く力 32%
- ・英語を聞く 11%
- ・英語を話す力 29%
- ・英語の文章を読む力 10%

という結果になった。

生徒の苦手な活動は「書く」活動が約50%と最も多い。中学生は試験や授業で英語を記述する機会が多く、英語を書けない＝英語ができなく不安と感じてしまう生徒が多い結果になった。次に28%と多かった活動は「話す」ことであった。「話す」活動は授業で会話練習や発表などを行っているが、会話練習で話せない生徒もいるため苦手を感じる生徒が多かった。

アンケートの記述回答を分析すると、「書く」活動では単語の意味やスペル、文章の正確さに不安を感じている生徒が多かった。実際の試験ではスペルミスや語順で減点や不正解になるので、生徒たちは書く活動の「正確さ」を一番気にしている結果になった。「話す」活動では「文章の正確さ」や「発音や読み方が合っているか」に不安を感じる生徒が多い。また、「相手に正確に自分の意見が伝わるか、不安に感じている」と記述している生徒も多数いた。

英語力の向上のために生徒たちが必要と考えている能力の上位は「単語力」「英作文」「文法」が多く見られた。定期試験や入試などを意識し、教科の学習に取り組んでいることが結果から見て取れる。また、次に必要と考えている能力は「話す」能力であった。会話活動やスピーチなどは他教科に比べると英語は話す機会が非常に多く、生徒にとって「英語には話す能力が必要」と意識しやすいと考えられる。

アンケートの結果からは「書く」「話す」ことは生徒にとって苦手な活動であるが、反面生徒が改善したい、高めたい力でもあることがわかった。

言語活動は「話す」「読む」「聞く」「書く」活動を通して「相手のことを考え、伝える力」を高めることである。そのためにそれを支える、「語彙力」・「文を考える力」・「発音」など、非常に多くの能力が必要とされる。今回の研究ではアンケートの質問の答えからもわかるように、生徒が特に不安に感じている表現に必要な「語彙力」と「文を考える力」に注目して取り組んだ。

以上の点を踏まえ、仮説1では言語活動で使うことができる語彙力を増やす指導、仮説2では生徒が不安に感じる英作文に取りかかる前に、グループで語彙を共有し、表現する内容を増やす活動を行うこととした。

4. 研究仮説

仮説1

語彙力を増やすことで、表現の幅が広がるであろう。

仮説2

お互いの意見や使える語彙を共有することで、表現できることが増えるであろう。

5. 研究内容

仮説1 【語彙力を増やすことで、表現の幅が広がるであろう。】

- ・各単元で単語の30問テストを行い、語彙力をつける。
- ・テストで覚えた単語を使用して文章を考えることで、英語で表現できることを増やす。

①授業前の帯活動で各単元の単語の BINGO (30語×4回) を全ての単元で、年間を通して行った。(資料2-1)

【BINGO のルール】

- ・宿題として各単元の単語30語から5×5(中心を除いた)24マスに選んで埋める。
- ・同じ生徒が答えないようにランダムに一人ずつ指名し、単語を黒板に書いて消していく(4分)
- ・黒板に書かれた単語は練習のためなぞって、再度 BINGO シート上を書く。
- ・2列 BINGO したら前に来て、教員がスタンプを押す。

→この活動を授業の帯活動で4回行った。

②BINGO の単語テスト(練習2回、本番1回)を行った。(資料2-2)

【小テストのルール】

- ・初回4分間、2・3回目は3分間タイマーで計って行う。
- ・2回目と3回目は以前の解答が見えないように紙を折ってから始める。
- ・時間になったら「答え合わせ」「点数の記入」「間違えた単語の確認」を各自で行う。
- ・3回目が終わったら教員がテスト用紙を集め点数を確認、記録する。

③30語テストの単語を用いて、本文を確認しながら英作文を行った。(資料2-3)

- ・30語テストの単語を使ってタブレットのアプリで英文を作成する。
- ・教科書の本文と BINGO シート(単語)は確認して良い。Google 翻訳などは使用不可。
- ・英文と日本語の意味の両方を書く。(英語で書こうとしている内容確認のため)
- ・タブレット上で提出させる。(資料2-4)
- ・教員が添削し、生徒へ返却する。

【生徒が行った BINGO のシート 縦・横・斜めどこか2列であがりとなる】

L E S S O N 2 O	B	choose	feel	Not yet	global	yet
	I	agree	if	plant	explain	disappear
	N	decrease	wind	TAKE MIRAI	reduce	electricity
	G	find	not at all	power	also	half
	O	rise	energy	serious	near	first place
B	choose ~を選ぶ	theme テーマ	yet まだ~ない	Not yet. まだです	global 世界的な、地球上の	feel ~と感じる
I	agree 賛成する、同意する	cause ~を引き起こす	disappear 消える、見えなくなる	plant 植物	explain ~を説明する	if もし~なら
N	decrease 減る	reduce ~を減少させる	electricity 電気	fossil fuel 化石燃料	pollute ~を汚染する	wind 風
G	find ~を見つけた	found findの過去形	half 半分	power エネルギー、力	also そのうえ	not ~ at all 全然~ない
O	nuclear 原子力の、核の	rise 上がる	first place まず	serious 深刻な	near 近い	energy エネルギー

仮説2 【お互いの意見や使える語彙を共有することで、表現できることが増えるであろう。】

以下のカードは同一生徒がロイロノート（タブレットのアプリ）で提出したものである。

活動ごとに単語数や表現を共有、確認して最終的に、自分の文章を提出させた。

①テーマに合う単語やフレーズなどをタブレットのシートに個人で書き出す。（資料3-1）

- ・時間を決めて送信したシートに書き出させる。
- ・苦手な生徒はあまり書けないので、短めに時間をとる。

夏休みのことについて文章を書こう①

【夏休みのことでも使えるような単語やフレーズを考えよう】

- fire works
- watermelon
- I am going to go to~
- insect
- beetle
- summer vacation
- fishing

②書き出したものを班で共有し、別の単語や他の言い回しがないか確認・共有する。

(資料3-2)

- ・班隊形にし、班長を中心に出してきたものをまとめる。
- ・長めに時間をとり(7~10分程度)、班長がまとめたシートを送信して共有する。

夏休みのことについて文章を書こう②

【夏休みのことで使えるような単語やフレーズを班で考え、共有しよう】

- ・ summer vacation
- ・ watermelon
- ・ homework
- ・ beetle
- ・ sea
- ・ fireworks
- ・ summerfestival
- ・ insect
- ・ pool
- ・ cicada
- ・ sunflower
- ・ shaved ice
- ・ hot
- ・ fishing
- ・ beach
- ・ I am going to go to~



③班内で出てきた意見を元に個人で英作文を作成し、提出する。(資料3-3)

- ・班長から送られてきたシートを元に、英作文を行う。(10分~15分)
- ・生徒から送られてきたシートは、教員が添削を行い、生徒へ返却する。

夏休みのことについて文章を書こう③

【①や②を参考にして文章を書いてみよう】(15分)

※終わったら①と③を【summer vacation】へ送る。

班長は①、②、③全て送る。

- ・ I am going to go to summer festival because I want eat shaved ice.
- ・ I like beetle. Because it is cool.

6. 研究の成果と課題

【研究の成果】

まず、語彙を増やすために、仮説1として①单元ごとに新出単語を BINGO を使って学習した。ゲーム形式で行うことにより、語彙を楽しく身につけようとする生徒が多かった。生徒たちは休み時間に表を埋めるなど、積極的に参加していた。家庭学習で単語練習に取り組んでいる生徒もあり、各单元で3回行った②の小テストでは、回数を重ねるごとに生徒の点数は向上していった。③の单元で習った単語を使った英作文では、一部の単語を変えつつ、本文の内容に類似している文章を作成している生徒もいた。BINGO で使った单元の新出語を使って英作文をすることで、自分の言葉として単語を使うことができた。中学1年生の基本的な文法に、習った単語を組み合わせて文章を作成するなど、表現の幅が広がった。

【成績下位の生徒が取り組んだ BINGO シート】

家庭学習などで勉強することで「初回 18 点→2 回目 28 点→3 回目 30 点」と点数をあげることができた。

Lesson 2 30問テスト			Class No. Name					
<p><テスト課題1> 18</p>			<p><テスト課題2> 28</p>			<p><テスト本番> 30</p>		
(1) 一語訳	choose	(16) まだです	not yet	(1) 一語訳	choose	(16) まだです	not yet	
(2) 増える, 増える	aged	(17) 植物	plant	(2) 増える, 増える	aged	(17) 植物	plant	
(3) 減る	decrease decrease	(18) 化石燃料	fossil fuel fossil fuel	(3) 減る	decrease decrease	(18) 化石燃料	fossil fuel fossil fuel	
(4) 一を見つめる	find	(19) エネルギー、力	power	(4) 一を見つめる	find	(19) エネルギー、力	power	
(5) 子どもの、後の	nuclear nuclear	(20) 深刻な	serious serious	(5) 子どもの、後の	nuclear nuclear	(20) 深刻な	serious serious	
(6) テーマ	them	(21) 世界の、世界の	global global	(6) テーマ	them	(21) 世界の、世界の	global global	
(7) 一を引き起こす	cause	(22) 一を説明する	explain explain	(7) 一を引き起こす	cause	(22) 一を説明する	explain explain	
(8) 一を減らす	reduce reduce	(23) 一を汚染する	pollute pollute	(8) 一を減らす	reduce reduce	(23) 一を汚染する	pollute pollute	
(9) 非公式の過去形	found	(24) そのうえ	also also	(9) 非公式の過去形	found	(24) そのうえ	also also	
(10) 上がる	rise	(25) 近い	near near	(10) 上がる	rise	(25) 近い	near near	
(11) まだ～ない	not yet not yet	(26) 一を感じる	feel feel	(11) まだ～ない	not yet not yet	(26) 一を感じる	feel feel	
(12) 非公式, 非公式	disappear disappear	(27) もし～なら	if if	(12) 非公式, 非公式	disappear disappear	(27) もし～なら	if if	
(13) 電気	electricity electricity	(28) 風	wind wind	(13) 電気	electricity electricity	(28) 風	wind wind	
(14) 半分	half half	(29) 全然～ない	not at all not at all	(14) 半分	half half	(29) 全然～ない	not at all not at all	
(15) まず	first place first place	(30) エネルギー	energy energy	(15) まず	first place first place	(30) エネルギー	energy energy	

次に英作文をするため、仮説2の活動を行った。生徒が不安に感じている語彙や表現の確認を行ってから、活動に取り組んだ。以前行った英作文を書く活動では、自分でどういったことを書きたいかまとめられないまま、記述に取り組む生徒も見られた。はじめに「体育祭」や「夏休み」などテーマを決め、①として使えるような単語を個人で書き出させた。条件として翻訳アプリや検索サイトを使用させずに、自分が知っている単語（中学生の語彙力内）で使えるものを書き出させた。過去形などを含めて個人で4～15の単語を考えることができた。その後、班で意見を共有することで「sad」「race」「fireworks」「watermelon」などの単語を英語が苦手な生徒も使って英作文をすることができた。翻訳機能を使わなかったので「ムカデ競走」といった難しい単語を使う生徒や班はなかったが、既習の単語で英作文をするために十分な単語が共有できた。他の生徒と共有した単語を元に多くの生徒が英作文に取り組めた。英語が苦手な生徒も単語や使い方がわかると、1～2文程度ならテーマに沿った文章を書くことができた。

文を考えるとときに苦手な「語彙力」と「文法」を事前に生徒たちに考えさせ、共有させることで英語が苦手な生徒もある程度、英作文をすることができた。単語を見ていくと、小学生から習っていた単語が多く、英作文では難しい単語を使用しなくても、生徒は英作文をすることが可能だということがわかったようだった。班で意見を共有することで「そ

んな単語もあったね」「この単語、英語でなんて言うんだっけ？」という学び直しの反応が多く見られた。生徒たちに単語を共有させることで、学力に関係なくテーマについて考えることができた。こういった活動を繰り返すことで、場面や状況に応じた単語を選ぶことができるようになるであろう。授業の帯活動などを活用して、時節に応じたテーマでの作文を定期的に行い、語彙力や思考力を向上させるための活動を繰り返す必要がある。また、班で共有することで、「自分の言いたいこと」だけではなく「自分たちが英語で書ける内容」を自然に考えることができていた。個人ではなくメンバーで意見を共有することで、自分では思いつかなかった単語や表現を共有することができた。（資料4）

【研究の課題】

仮説1の BINGO の単語を使った英作文では、単語の意味はわかっているでも自分の言葉として使うには至らず、文章を書けない生徒も見られた。語彙を増やすということは、単に単語を覚えるということにとどまらず、その使い方を自分の言葉で表現する機会をたくさん与えることが大切である。その為には、テストの正答率の低かった語彙を使つての英作文や、テーマ英作文を作成させること、グループワークで良い表現を生徒たちで共有し様々な例を知る活動をする事で、語彙に対する理解をより深めることができるであろう。今後はグループワークや振り返り活動を行い、語彙力の定着活動をよりブラッシュアップしていきたい。

仮説2の英作文の活動では、英語が得意な生徒でも多くの文章を書くことはできているが、内容にまとまりがなく、夏休みについての説明を箇条書きにして書いてしまう生徒もいた（ページ下部の図）。内容のまとまった文章を書くためには、「どんなこと」「補足情報」「自分の意見」など、書くことや話すことの内容に、より深みをもたせられるものを考えることを指導する必要があると感じた。また、共有した語彙などについては、教員が確認し、お手本を全体に共有することで、生徒たちは安心して単語やフレーズを使って活動に取り組むことができるので、活動の途中経過を確認し、修正・共有することでより良い活動をさせることができると考える。

自分の意見をまとめ、文章を考えることは英語科だけの課題ではない。国語科の記述問題や道徳の意見をまとめる活動など他教科でも必要な力となっている。意見の出し方やまとめ方など生徒にわかりやすく指導することが大切である。

【夏休みについて生徒が書いた文】

夏休みのことについて文章を書こう③

【①や②を参考にして文章を書いてみよう】（15分）

※終わったら①と③を【summer vacation】へ送る。

班長は①、②、③全て送る。

I like summer vacation because I enjoy summer festival.

I am going to go to sea with my family.

I will eat watermelon.

I don't like summer vacation because I don't want to do my homework.

I like pool because it is fun.

I don't like summer because it is very hot.

I am going to go on a trip with my family.

I am going to see a movie with my friend.

I like summer festival because I eat a lot of delicious food.

英語は得意な生徒だが、箇条書きになってしまい、まとまりのない文章になってしまっている。

7. まとめ

今回のアンケートで生徒たちが英語に対して不安に感じていることは、「文章の正確性」や表現したいが単語がわからない「語彙力」にあることがわかった。語彙力の不安を減らして活動に取り組めるように、仮説1ではゲーム形式で語彙を学習することで、生徒たちが前向きに学習に取り組んでいた。仮説2では英作文を通じて、表現できることを確認した。その際、一人では活動に取りかかれない生徒も、他の生徒と意見を共有することで、自分の不安に感じていた単語や表現を確認し、安心して活動に取り組んでいた。また、意見を出し合うことで、学習内容の学び直しにつながった。

一方で、身につけた語彙は、自分の考えを伝える文章の中で使用して、初めて生徒たちが自分の言葉として活用できると感じた。また、英語が苦手な生徒も、自分の意見を持ち表現したいが、英語に対する不安から活動に取り組むことができない場合もあった。同級生と意見を共有したり、教員が全体にアドバイスをしたりするなどして、不安な状況を取り除くと、生徒たちは自ら活動に取り組めた。今後の指導では、活動前に生徒が気になっていることを確認し、班で共有するなどして、生徒が安心して学習活動に取り組める授業準備をしたいと感じた。